

第5回 吹田操車場跡地まちづくり計画委員会 議事要旨

1. 日時

平成20年8月20日（水）10時00分～12時00分

2. 場所

吹田商工会議所 大会議室

3. 出席者

【委員】

林 紀夫	大阪大学医学部附属病院 病院長
山内 直人	大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授
江川 直樹	関西大学環境都市工学部 教授
奥田 直弥	関西経済連合会 専務理事
篠崎 由紀子	都市生活研究所 代表取締役社長
高橋 叡子	大阪国際文化協会 会長
西植 博	国土交通省近畿地方整備局 建政部長（代理出席）
小河 保之	大阪府副知事
阪口 善雄	吹田市長
森山 一正	摂津市長

【オブザーバー】

福永 清	都市再生機構 西日本支社長
宮澤 幸成	日本貨物鉄道 常務取締役関西支社長

4. 議事概要

1) 開会あいさつ

●事務局

おはようございます。定刻になりましたので、ただ今から吹田操車場跡地まちづくり計画委員会を開催いたします。私は事務局の吹田市東部拠点整備担当、理事の中山でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、本日お配りしております資料のご確認をお願いいたします。まず、配席表でございます。それと、本日の次第でございます。それと、エコメディカルシティ構想というカラー版の冊子でございます。それと、まちづくりアイデア募集コンペの冊子でございます。それと、吹田操車場跡地まちづくりプロジェクトという都市再生機構が作成しました、事業概要のパンフレット。以上が本日の資料でございます。

それでは、会長の方から開会をよろしくお願いいたします。

●阪口会長

おはようございます。会長の吹田市長の阪口でございます。開会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。委員の皆様方におかれましては、公私何かとお忙しい中を、また猛暑の中、吹田操車場跡地まちづくり計画委員会にお集まりを賜りまして、誠にありがとうございます。昨年度は本計画委員会におきまして、吹田操車場跡地まちづくり全体構想をまとめて頂き、まちの望ましい姿、まちづくりの方向性をお示し頂きましたことに、改めて御礼を申し上げます。

吹田操車場跡地は、その立地と規模、交通の利便性、周辺地域に集積いたします市の財産など、極めて高いポテンシャルを有しておりまして、梅田北ヤードと比較いたしますと、事業展開に大きな夢を描くことのできる用地として可能性があり、多くの方々から高い関心を持って頂いているところでございます。

こうした中、いよいよ平成 22 年度末のまちびらきまで、後 2 年半と相成りました。梅田北ヤードの再開発は、関西経済活性化のキーププロジェクトと言われておりまして、吹田操車場跡地まちづくりと表裏一体の密接なる関係にございます。また、吹田操車場跡地まちづくりは、吹田・摂津両市のみならず、北摂全体、更には東海道軸線上でつながります京阪神地域に経済効果はもとより、計り知れないインパクトを与えるものでございまして、その推進に是非とも皆様方のお力添えを頂きたいと願っているところでございます。

今年度は全体構想を実現するための指針となります基本計画を策定いたしまして、来年度に実施を予定しております事業コンペに向け、計画的に準備を進めて参りたいと存じております。この吹田操車場跡地まちづくり基本計画を策定するにあたりまして、本計画委員会からのご助言を頂きたいと存じているところでございます。

さて、本日はまちづくりを進めます上で、構想の中核になりますエコメディカルシティ構想につきまして、簡単にご説明をさせて頂きたいと思っております。

全体構想におきましても、環境先進的なまちの実現という方向性を明確にして頂き、これを受けましてわれわれも最先端の環境への配慮により、まちづくりに取り組むことを明らかにして参りました。一方まちの中心的なエリアにございます医療・健康創生ゾーンにおきましては、大阪大学医学部附属病院や、国立循環器病センターなど周辺地域に集積いたします高度医療機関と連携いたしました新たな機能を導入することが望ましいとのご意見を頂いてきたところでございます。私は地球環境、すなわち地球の健康は、人の健康につながる一体的なものであり、健康は人もとより地球にとってもかけがえのないものであると考えております。この理念に基づきまして、環境先進性と高度医療機能が融合いたしました新しいまちづくりの概念を継承し、エコメディカルと名付けさせていただいたところでございます。この考えを明らかにさせていただいた上で実施いたしましたアイデア募集コンペにおきましては、「エコメディカルプラネット OSAKA 計画」というご提案も頂きました。これは具体的な内容に裏打ちされた実現性の高いまちづくりの核になり得る計画だと思っております。

そこで、エコメディカル概念と、このご提案の内容を踏まえさせて頂きまして、エコメディカルシティ構想を作成したところでございます。この地でのまちづくりから、現実のものとなりますまでには長い時間の中でさまざまな紆余曲折がございました。その度に、市民、

議会、関係者の熱い思いに後押しされ、ようやく今日を迎えることができました。それだけにこのまちづくりに携わります私たちには、全体構想を実現し、次世代の方々に引き継ぐ責務があると考えております。本計画委員会の皆様におかれましては、このまちづくりの実現に向けまして、引き続き力強いご指導・ご支援を頂きますようお願い申し上げまして、私の開会のごあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。よろしくようお願い申し上げます。

それでは、次第に従いまして、報告案件の（１）、新委員の紹介に移らせて頂きます。本日は新年度第１回目ということでございますので、人事異動等により委員が交代されておられますので、事務局から報告願います。

2) 新委員の紹介

●事務局

それでは、資料の（１）をご覧ください。委員名簿のうち、下線部分で変更部分を示しております。国土交通省近畿地方整備局局長の木下様に今回新たにご就任のお願いをいたしました。本日は国土交通省近畿地方整備局西植建政部長様に代理のご出席を頂いております。また、下の方でございますけれども、鉄道建設・運輸施設整備支援機構でございますが、組織名の変更がされております。以上が委員名簿の変更点でございます。

●阪口会長

それでは、新たに就任されました委員よりご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしく願います。

●西植氏（木下委員代理出席）

近畿地方整備局近畿地方整備局の西植でございます。本日、木下は所用で出席できません。代理で参りました。よろしくお願いいたします。

●阪口会長

どうもありがとうございました。

それでは、報告案件の（２）吹田操車場跡地まちづくりアイデア募集コンペについて、事務局から報告を受けます。

3) 吹田操車場跡地まちづくりアイデア募集コンペについて

●事務局

それでは、まちづくりアイデア募集コンペのご報告をさせていただきます。

まず、まちづくりアイデア募集コンペにつきましては、皆様方に大変ご協力を頂きました。この場をお借りまして、一言御礼を申し上げます。ご協力頂きまして、誠にありがとうございました。

それでは、資料の２にアイデア募集コンペの実施内容等をまとめておりますので、資料に基づきご説明をさせていただきます。

募集期間が、本年の３月２７日から５月９日でございます。その間多数のご参加を頂きまして説明会、現地説明会、シンポジウムを開催させて頂きました。また、計画委員会、促

進協議会などからご後援、ご協力を頂き、まちづくりアイデア部門で 182 件、ネーミング部門で 588 件の作品を頂戴いたしたところでございます。

次のページ、(9) のコンペ審査会でございますが、審査委員長を鳴海 大阪大学名誉教授にお願いをいたしまして、6 名の審査委員、合計 7 名に審査をお願いいたしました。審査の過程でございますが、1 次、2 次の事前審査を経まして、審査会で審査頂き、本年 7 月 8 日に表彰式を執り行ったところでございます。

では、改めまして、お手元の資料にもございますけれども、パワーポイントで簡単に作品のご紹介をさせて頂きたいと思っております。まちづくりアイデア部門につきましては、入選 5 作品、準入選 3 作品とは別に、審査会特別賞 2 作品も選定されたところでございます。まちづくりアイデア部門の入選作品、1 作品目、「《S×S》の杜（エスエスのもり）」ということです。この作品というのは、歩くことをベースにいたしまして、環境配慮への工夫のある作品。建物と緑、水の配置など、景観の面、また表現力もコンセプトが明確で、完成度の高い作品であるという講評でございました。

次、2 作品目が、「原点になるまちエコアップタウン」。全体構想と合致した実現可能性の高い作品ということで、バランス感覚のある作品として評価されたところでございます。

3 作品目です。「空白を埋めるように… ーまちと暮らしの「骨格」による地域の再生ー」。周辺の既存の市街地との連続性。一体的な発展を考える「骨格」の発想というのが、持続発展的なまちづくりを示唆しているということで、評価されました。

次、「ちさと（千里）プロジェクト」。疎水を骨格といたしましたスケール感が新しいまちのイメージを高める。単純だが分かりやすい提案である。主要な機能、地域活動の仕組みも先導的であるとの評価でございます。

次、5 作品目。「グリーン・エコ・チューブ ー地域をつなぐ環境ネットワークをつくるー」という作品ですけれども、エコ・モビリティ・ネットワークの考え方に、これからのまちづくりに対する期待感が高まる提案ということで、企画内容の総合性が高いとの講評でございます。

以上の 5 作品が入選作品でございます。続きまして、準入選の 3 作品でございます。「未来へエコの夢運ぶ、みどりと花いっぱい箱船」という提案でございます。風と緑の通り道（緑地）というものがテーマといたしまして、建物と緑地の反復によって細長い敷地に変化をもたせた作品でございます。

次、「あすなろまち」。川と丘をコンセプトにしまして、独創性の高いアイデアを高い表現力でビジュアル化した作品でございます。

「「千年の杜」環境と人・暮らしが調和した健やかで豊かなまち」。「健やかな人々、暮らし、環境」が調和し、永続的に続くようにとのコンセプトでございまして、全体構想に沿った作品ということでございます。以上が準入選の 3 作品でございます。

続きまして、審査会特別賞の作品をご紹介します。

「エコメディカルプラネット OSAKA 計画」。このご提案が、開発地域の周辺に立地する、この地域の財産ともいえる高度医療機関が連携した先端医療施設の整備、バイオ・医療関連企業の誘致に関する魅力ある提案である。高度医療と環境先進性のマッチングも、両市が進

める医療健康創生ゾーンのまちづくり方針にかなうものである。ハイテク、バイオ、医療機器開発の拠点を目指すこの提案は、世界的にも注目される都市になり得る実現可能性の高い提案であるということでございます。この作品でございますけれども、提案書に提案主体が明示されているということから、入選作品とは別に、事業化の実現が期待されている提案として審査会特別賞に位置付けられた作品であります。

もう1つの審査会特別賞でございます。「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」の活性化を目指して」でございます。この作品は、市民の目線に立ったまちづくり提案のアイデアというのが十分評価できるものである。貨物ターミナル駅の整備と関連した本提案は斬新で、市民のニーズを反映した夢のある作品ということで審査会特別賞にしております。以上がまちづくりアイデア部門のそれぞれの作品であります。

続きまして、ネーミング部門、まちの愛称の作品でございます。入選作品は「アークピア・シティ」、「風の道まち」、「スウィーツタウン」、「ホクシス」、「OSAKA エコロ」この5作品が入選作品に選ばれております。続きまして、準入選の作品でございます。「北摂ハーモニータウン」、「アース・プラザ (Earth Plaza)」。それから補欠としまして、「夢水都 (ユメスイト)」、「翠都 (すいと)」。この2作品が補欠ということでございます。

以上が、簡単ではございましたけれども、まちづくりアイデア募集コンペの報告とさせていただきます。

●阪口会長

どうもありがとうございました。このように多数の提案があったようでございまして、吹田操車場跡地まちづくりへの関心の高さが伺えるのではないかと考えております。

ただ今のご報告につきまして、ご意見・ご質問等はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは引き続き、報告案件の(3)です。今後のまちづくりスケジュールにつきまして、事務局から報告願います。

4) 今後のまちづくりスケジュールについて

●事務局

それでは、吹田操車場跡地まちづくり事業スケジュールの説明をさせていただきます。資料の3でございます。

まず、左の上の方でございます、①環境アセス【吹田市】ということになっております。予定事業に係ります環境アセスでございますが、吹田市環境影響評価条例に基づきまして手続を行なっております。事後評価を残しまして、予定通り完了いたしております。

下の②都市計画の手続きでございます。宅地、計画道路・都市計画公園の計画決定を行いまして、7月に告示を出しております。今後まちづくり計画(基本計画)において、まちづくりガイドラインを策定いたしまして、来年の同時期に地域地区、用途地域でありますとか、容積率等でございますけれども、地域地区を定めて参る予定でございます。当初のスケジュールでは、地区計画も同時期に策定をする、決定するというような予定でございましたが、事業コンペを開きまして、事業者から提案を頂くということから、計画ありきの決定を生かしますと、提案の幅を狭めることになる、などの理由から予定を1年延ばしまして、翌年に

計画決定といたしておるところでございます。なお、今後都市計画変更の手続きに関しましては、大阪府とご協議、ご相談申し上げながら進めて参りたいと考えておるところでございます。

次に③の土地区画整理事業（都市基盤施設）でございます。現在、都市再生機構が国土交通大臣の認可を頂くための作業を進めております。本年度内に事業認可を頂くという予定となっております。認可を頂戴いたしますと、平成 22 年度末まちびらきに向けまして、先行的に岸辺駅の北側の交通広場の工事に着手する予定でございます。また、平成 21 年度夏以降に、仮換地の手続きを予定いたしております。仮換地が指定されますと、土地区画整理事業の各土地所有者の宅地の面積、形というものが決定されます。都市計画の地域地区と合わせまして、仮換地指定がされますと、事業コンペができる条件がそろって参ります。

次に、4 点目の防災公園街区の整備事業でございます。摂津市からの要請に基づきまして、都市再生機構が施工いたすということになっておりまして、平成 23 年度から着手をする予定でございます。

次に、事業者の決定でございます。今後事業コンペの準備を進めまして、先ほどの過程を経て仮換地指定以降に事業コンペの準備をするということでございます。

次、6 点目の本計画委員会でございますが、昨年度末にまちづくり全体構想をまとめていただき、アイデア募集コンペを実施しております。アイデア募集コンペで頂きましたアイデアをもとに、吹田・摂津両市がまちづくり基本計画をまとめ、計画委員会の皆様のご助言を頂きまして、策定後、計画委員会の閉会をいたしたいという予定とさせて頂いております。よろしくお願いたします。

最後になりますが、7 点目の促進協議会でございますが、まちづくり基本計画策定以降の事業を促進しようとするための方策等々につきまして、ご意見、ご指摘を頂きながら、事業を進めて参りたいと考えております。

以上が、吹田操車場跡地まちづくりの事業スケジュールでございます。よろしくお願いたします。

●阪口会長

どうもありがとうございました。ただ今のスケジュール、ご報告につきまして、ご意見、ご質問等はございますか。

それでは、次第に従いまして、議事の中のまちづくり計画につきまして、議論を進めたいと存じます。事務局から説明願います。

5) まちづくり計画について

●事務局

はい。それでは、まちづくり基本計画の策定に向けてということで、ご説明をさせていただきます。

まず、当地区の立地、都市の特性でございます。市街地におけます貴重な都市空間としまして、吹田市で約 14.4ha、摂津市で 8.6ha、合計で 23ha の用地のまちづくりを進めるということになっております。東海道線沿いの立地となっており、神戸、京都等々から 30 分圏

内の立地でございます。沿線の人口は約 1,200 万人の人口でございます。また、通過人口というのが、約 100 万人ということでございます。それと、新大阪駅から 7 分、それから大阪空港から 40 分、関西空港につきましては 1 時間 30 分圏内でございます。それと、道路交通では吹田 I.C があり、非常に交通利便な立地でございます。それに加えて、地域に集積する豊富な社会資源といたしまして、各大学、高度医療機関等々があります。

次にゾーンのご説明をいたします。緑のふれあい交流創生ゾーンといたしまして、水と緑を中心とした市民の生活交流空間としております。それと、医療健康創生エリア、教育文化創生エリアからなります医療健康創生ゾーン。それから、摂津市域に移りまして、都市型居住ゾーン、それと防災機能を有した都市公園でございます。正雀下水処理場、摂津市のクリーンセンターを含みます、約 4.5ha の用地がございますが、これにつきましては将来的な機能廃止を検討しており、操車場のまちづくりと一体的な活用を図ることが望ましいと位置付けをされております。全体構想の中でのまちづくりの方向性という部分でございますが、基本方針として、緑と水につつまれた健康教育創生拠点の創出。2 点目としまして、自然環境の再生にとどまらず、環境と経済の共生、統合を実現し、脱温暖化社会モデルとなるような新たな環境先進性を実現していこう。それと、周辺には大阪大学医学部附属病院、国立循環器病センターがあり、それと連携を図りながら、新たな医療健康機能を創出していくということが、地域の特性を生かしたまちづくりであるといった方向性で、全体構想にまとめられています。

それでは、これからのまちづくり基本計画の策定に向けてということで、最初に、医療健康機能の導入についてでございますが、これはまちづくりの核となっています。まちづくりの基本計画の策定に当たりましては、新たな全体構想の趣旨に則りまして、アイデア募集コンペの内容を生かすこと、これまではまさにテーマでありました。また、核となるゾーンにおきまして、唯一エコメディカルを具体化したアイデアが出ております。この提案内容というのは、高度医療拠点の創生に関するものであり、審査会での評価も高いものでございます。このアイデアを生かしまして、吹田市が策定をいたしました。今から説明させていただきますけれども、エコメディカルシティ構想であります。今後策定するまちづくり計画素案の 1 つの核となるものという位置付けでございます。まずは、まちづくりの核となる医療健康に関する方向性というものを明確にしていくということが、大変事業コンペにエントリーして頂く事業者に対する責務ではないかというふうに考えております。

今後各ゾーンに関する、また全体にかかる緑、水、環境先進で取り組む施策も、そういった構想をコンペで頂いたアイデアを生かしまして策定し、今年度末に策定を予定しておりますまちづくり計画に繋げていきたいと考えております。

それでは、エコメディカルシティ構想の説明をさせていただきます。エコメディカルシティ構想の位置付けは素案になります。これはこのエコメディカルシティ構想がたたき台としてご意見を伺いながら進化していくものであるという意味です。1 ページ、初めに、立地特性から始まりまして、エコメディカル拠点の創生。2 ページで環境の先進性。3 ページでございますが、5 番目に各ゾーンの整備方向としまして、医療健康創生ゾーン、教育文化創生ゾーンについては、緑のふれあい交流、未来医療であり、未病健康教育、環境医療開発があり、

あとは創生ゾーンということで、現段階での整備の方向性について書いております。

続きまして、エコメディカルシティ構想の概念図でございます。「高度医療研究資源」、それから「環境世界都市すいた」、こういったものを結合しながらエコメディカルエリアの創出ということで概念図をお示しさせて頂いております。この部分までが、エコメディカルシティ構想の内容でございます。その次に資料編ということで、「EcoMedical Planet」。これはアイデア募集コンペで頂いた内容をそのままお付けさせて頂いております。作品と論文でございます。それと、広域図の位置関係、位置図をお示しさせて頂いております。裏面の方でございますけれども、交通アクセス図を示させて頂いております。それと、吹田操車場跡地を取り巻く主要なプロジェクト。それと、事業予定、スケジュール。それと、周辺に集積する社会資源。それと、これはアイデア募集コンペのシンポジウムの内容でございます。

それでは、1ページめくって頂きまして、エコメディカルシティ構想の素案、A3をお開き頂きたいと思っております。ゾーニング図でございます。全体構想では、1ページの部分に教育文化創生ゾーンとか医療健康創生ゾーンということでお示しをさせて頂いておりましたが、エコメディカルシティ構想では、まず約2.7haの医療健康創生ゾーンの整備計画を具体的にお示しをさせて頂いております。先端医療エリアということで、未来医療病院、環境医療関連施設とお示しをさせて頂いております。それと教育文化エリアでございます。アイデア募集コンペでは、教育の具体的なご提案は頂いておりません。しかしながら、エコメディカルプラネットでは、医学教育施設のご提案を頂いておりましたので、教育文化創生エリアということにいたしまして、未病健康教育施設という、導入機能の誘導方針という形でまとめさせて頂いております。

それと、エコメディカルプラネット OSAKA の中に登場する具体的な組織名というのがございまして、確かに全体構想でも「連携を図るべし」という主体でございました。全体構想の中のまとめに社会資源とのつながりという部分の表現がございます。ちょっと読ませて頂きますけれども、「社会資源のつながりとは、計画地の周辺に豊富に集積する知的社会資源との連携を図り、新たな機能付加価値を創出することを意味している。特に、医療健康創生ゾーンに導入する機能について、周辺に存在する国家的な医療施設である大阪大学医学部附属病院と国立循環器病センターなどと連携を図りながら、命・健康というコンセプトを明確にすることが社会的に望ましく、地域特性を生かしたまちづくりにするという考え方である」ということで、こういった表現で周辺の施設を生かしながら、計画を高めていくという表現ということでございます。従いまして、いつまでもそれらが持つ機能の連携によって生まれる構想をというものを提案にさせて頂いたものでございます。事業者としてそれらが参画をするという内容ではございませんので、よろしくお願いいたします。

最後になりますけれども、今後本計画委員会よりご助言を頂きながら、本構想、より全体計画の熟度を上げまして、本年度末にはまちづくり基本計画を策定いたしまして、事業者を決定する。来年度の事業コンペにつなげていきたいというふうに考えておるところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

● 阪口会長

ただ今、事務局から、エコメディカルシティ構想について説明がありました。全国に誇る

べき高度医療機関との連携によりますメディカルな機能と、最先端の環境性によるエコロジカルな機能の融合により、世界にはばたく環境、健康、創生都市の創出を目指すという吹田市の考え方をお示しいたしました。ただ今の説明に対して、ご意見・ご質問はございませんでしょうか。

●小河委員

少しこのエコメディカルシティ構想の位置付けがよく分からなくて、お聞きします。今回このまちづくり計画を作るにあたり、構想の中身は非常に面白いと思います。実現性は別にしまして。アイデア募集コンペでいろいろ提案があって、それを吹田市で「こんな方がいいな」として案を作られ、この構想を1つのたたき台として、この委員会で新たな計画を作るのか。そのためにこの構想をみんなで議論して下さいというのか。それと、その次の段階の事業コンペのときに、この構想で制約があるのか。その辺の位置付けがよく分からない、どうなっているか。そういうことから、今日は報告ではなくて、議事としてされるのか、ご説明いただけますか。

●阪口会長

環境、緑と水につつまれた健康・教育創生拠点という基本構想は、この間ずっと計画委員会等々、促進協議会におきましても確認頂いておりました。長い経過をもちながら、アイデア募集コンペをやってきました。その前段でシンポジウムが、IMPホールにおいて開催されましたが、その時、そこで吹田市長の立場でございますけれども、エコメディカルという言葉がいいのではないかと発言させていただきました。エコ、環境問題と環境創生、世界環境都市すいたということで統合しました。市は残念ながら環境モデル10都市には漏れましたけれども、その思いは今でも変わっていませんし、独自で大阪府の協力を得ながらやっというと思っています。そのような環境健康教育創生拠点を更に一步押し出した考え方がエコメディカルということです。そういうポテンシャルが高いものですから。このたび幸いにもアイデア募集コンペでそのようなエコメディカルプラネット計画というものも出して頂きまして、審査員の特別賞に選ばれたわけです。そういったエコメディカルプラネット計画、それを踏まえさせて頂きまして、吹田市としてはこの最初のテーマを更に一步進めまして、エコメディカルシティ構想をまとめました。今までの経過と矛盾するのではなくて、今までの考え方を更に一步押し進めたものとして、充実というか改良したものとして検討いただき、基本計画をつくらせて頂きますけれども、その基本計画のコンセプトとして、こういうテーマではどうでしょうかということで今回提案させて頂いています。その基本は来年の事業主体コンペにも取り入れていきますが、そういった経過で出ささせて頂いていると私は思います。

●小河委員

この委員会でこれから議論を行うということで、市から提案されたと受け止めます。今、気になっていますのは、この構想は非常に面白い、今の流れから良いと思うのですが、かなり具体的になっていて、これが本当にここまで限定されると、特に林委員がいらっしゃいますが、本当にこういうことがあり得るのか。ここまで限定してしまったときに、事業コンペを行ったときに、本当にそれが実現性あるのかなと、ちょっと危惧しています。だからこの

辺はもっとこの委員会で議論して新たに計画をまとめるというふうに認識があったら良いのですが、市長さんの強い思いでこの構想どおりで決まってしまうと、ちょっと気になるなどというのがあります。決して邪魔するという意味ではないのです。まちづくり計画をまとめるにあたり、議論をこれからしていくということを確認しているのです。

●阪口会長

そういうことで思っていますので、よろしくお願いします。

●林委員

おっしゃる通りだと思うのです。別の機会でも申し上げたのですが、これは先ほどの提案は阪大の先生が提案されました。これは基本的に大阪大学附属病院がこの計画を推進するという立場ではございませんので、それは是非念を押ししたいと思います。それから、ここに書いている話としては面白いのですが、これはかなり難しい面がございまして、事業主体の問題、恐らく事業コンペをしたときに、実際にそういうことを提案していただけるかどうかということが非常に大きな問題があります。医療というのは非常に不採算性の高い部門でして、特にかなり未来の医療を行うと、その医療収入からその収益を中々獲得するのは難しい。恐らく公的な機関がかかり財政的援助をやらないと実際こういうのは実現しないということなので、かなりそういう意味では難しい点を含んでいます。それも1カ所だったらいいですが、複数のところにそういうかなり難しい選択肢が入っているので、それを実現していくというのはかなり難しいのではないかと考えています。先ほどのご質問はその通りだと思います。

●高橋委員

今の吹田市の考え方というのが分かりまして、結局この計画委員会というのは吹田市が基本計画をつくられた時のいろんな表現とか、ものを言う機関だと思っています。ただ、最終的には吹田市と摂津市が基本計画を立てられていくということですよ。そのときにエコメディカルシティというコアコンセプトを一応ここで出されたというふうに認識したらいいですよ。そしたら、そのコアコンセプトの中身は今、林委員がおっしゃったようにいろいろ、私どもが分からない専門的な考え方がありますので、あんまりここでそれを具体的に議論できないと本当は思うのです。私が申し上げたいのは、アイデア募集コンペの審査をさせて頂きましたので、例えば緑のふれあい交流創生ゾーンとか、いろいろなほかのゾーンとかに提案がありました。次の計画委員会には、例えばエコメディカルプラネットを出されたように、例えばエスエスの杜がというふうに順次計画委員会に出されるのでしょうか。それでないとやっぱりアイデアを出された方が、どこに自分達のものが入ったのか、と思われる訳ですよ。大体アイデア募集コンペを見せて頂いて、エコメディカルプラネット以外はプレゼンテーションが上手だなという形で、中身はあんまり変わらなかったのです。緑と水と環境資源をうまく使っていると。ただやはり、せっかくアイデア募集コンペをしましたのが、今回初めてエコメディカルプラネットを取り入れていくというのが出されたわけだから、次のときには多分そういう形を他のアイデアについても取って頂かないと、やはり市民の説明というのはちょっと難しいかなというふうに考えております。

●阪口会長

高橋委員からの温かいご助言ですね。今回はコアコンセプトだけのことでございまして、まだ全体的な、それぞれの分野分野の考え方には至っておりませんので、今後コアコンセプト、それに次ぐゾーンということで考え方を摂津市と共同させて頂きながら他のアイデアについても出させて頂きますので、その節には温かいご議論を賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

●森山副会長

私は副会長の立場ですが、もう一方は摂津市長という2つの顔をもっていますので、発言に問題があったらお許し頂きたいと思えます。小河委員、高橋委員がおっしゃったことと関連するのですけれども、もともとこのスタートは吹田市の東部拠点開発というこれがスタートになっていると思えますが、もっと大きな見地から吹田、摂津が一緒になって1+1を3にしようということになったと思うのですね。それぞれが思いをもっていたと。それぞれの思いだけでやると具合が悪いよと。持ち寄って、さらにいいものをつくっていこうということになったのです。エコメディカルシティ構想、これは素晴らしいネーミングだと思います。内容も別に悪くないと思えます。ただ、吹田市独自で取り組んでおられるという状況が今高橋委員が言われた通りなのですね。そこで、できたら今おっしゃったように、そのエコメディカルシティ構想、そして例えば摂津の場合でしたら都市型住空間構想、こっちの部分。同時にこういうような構想を出して、そしてここでこういうようなものをつくり上げていこうという話になったほうが、僕はよかったと思うんです。今回当初の吹田市の思いが先行したという形になっているのですけど、こういう形になった以上はこの事業のまず採算性というのがやっぱり大事だと思うのですね。時節柄、採算性無視なんて考えられないと。それから今言われているようなメインテーマの問題。それで環境です、緑の環境。この3つをどういうふうにバランスを取っていくかということを考えないと、恐らく素晴らしいエコメディカルシティ構想というのが成就しないと思えます。そういう意味では、例えば摂津の場合でしたら、住空間ですか、安全・安心。その横にある処理場の問題。これがいつまでも付きまってくるテーマだと思います。ここも全体の構想に準じてやりなさいという指摘を頂いております。そうすると今回吹田市のエコメディカルシティ構想が告示された。同時に例えば、その整合性が必要だと思います、全体的に。そうすると、摂津のこの部分については、吹田市の理解も得る中で将来的にはやっぱり都市型住空間構想というような位置付を同時に出していくと、全体が見えてくるのですけど、今回エコメディカル、メインテーマの方だけ出ているので、恐らくこれがあって、次こっちのときどかないなんねんという話になっては具合が悪いという話を高橋委員が言われたのだと思えます。そういう意味で、摂津だけの思いのことを言うてしまったら、私はよくないと思うのですね。この辺は、保留地になるのですね、これ全部。摂津のものでもないし、吹田のものでもないし、保留地にこの事業をなされていくわけでありますから、全部それぞれのリスクも負っていくのです、今後は。もし採算性の問題が問われたときには、そういう意味では、よっぽど点検をしながら事務局レベルできちっと詰めていってここに、いろいろ皆さんに提案していかないと、今のような話が出てくると思えます。そんなことで事務局までわれわれは口は出せないですから。副会長としては事務局を預かっているほうであって、立場は摂津で2つあるのですけれども、そ

の辺は事務局どうなっているのでしょうか。

●事務局

今回のエコメディカルシティ構想ということで、吹田市のコアの部分のご提案をさせて頂いております。ご指摘頂いております事業の採算性であるとか、トータルのなまちづくりのコンセプト、それらをまとめていくということにつきましては、当然のことながら事業主体である、区画整備事業主体であれば、都市再生機構の事業者としての立場。それと摂津市、吹田市、まちづくり計画を策定していくという責務という部分。それらは今後ご指摘頂き、事業採算等も含めましてこれから進めていくと。事業コンペに向けてどういった事業コンペがいいのかも含めまして、決めていきたいというふうに考えております。以上です。

●森山副会長

だから、この素晴らしい構想のメインテーマのエコメディカルというのですが、こいつを成就さそうと思えば思うほど、その辺事務局レベルで、逆に言うたら喧々諤々でもいいから、言いにくいことをお互いに言って、やっというて出してこないと、まとまる話もまとまれへんようになってしまう。私はそう思います。だから、例えば摂津市がここを都市型居住ゾーンですと。それで吹田市の大きな土地がありますよと。これも将来的にこれに準じたことにしなさいと、このアイデア募集コンペに頂いていると。それなら摂津市がここは住空間で将来こういうまちづくりしますよと今ポツと出してきたとしたら、例えばそれ何のこっちゃなんてことになってしまったらいけませんので、そのときはわれわれ事務局レベルできちっと詰めた上で、こういうふうにやりたいというのを打ち出していきますけれども、そういうことも含めて同時にいろんなところが出てきていたら、もうちょっと高橋委員みたいな意見が。とりあえずそっちだけ一生懸命、今度こっちやってバラバラになってしまうからまとまらないということになってしまうでしょう。だから、その辺は事務局、これ以上言いませんけれども、と思います。

●事務局

関係者の方々と連携を図りながら、詰めて進めさせて頂きたいというふうに考えておりますのでよろしくお願いします。

●篠崎委員

多分、事業コンペが平成 21 年ということなので、この基本計画を策定する最後あたりは、事業コンペの募集要項と整合性がないといけないのではないかというふうな事務局の方々の思いが現われているのかなというふうに思いながらお聞きしておりました。それでこの計画委員会そのものは、全体のまちづくりをトータルで大きな視点から計画、全体としてどういうまちにしていくかというそのこのところを、まずはきちっと検討する委員会だというふうに私は思っております。ただ、その中にもそれぞれゾーンごとに、例えば市が自ら施工なされるゾーンもあれば、民間事業者に進出してもらうために事業コンペをするエリアもあればということで。ちょっとその中でこのアイデア募集コンペの中の実現可能な非常に素晴らしいアイデアが反映されたゾーンのお話が構想という形で全体を縛るような感じで出てきたからではないかと思うので。私はこの医療健康創生のエコメディカルという、やっぱりこの地区全体のイメージ付けをしていくという意味ではかなりコアだと思っておりますし、そののと

ころにかなりのエネルギーを割かないといけないだろうということも感じておりますけれど、ただやはり、緑地ですとか、都市居住ですとかといったいろんな要素がございますので、この計画委員会の中ではもう少し全体的に大きな視点から、計画をまとめていく必要があるのかなと思っております。それでちょっとよく思ったのが、北ヤードは、ナレッジキャピタルということで、コアのゾーンということでエネルギーをかけてナレッジキャピタルを成功させるためにいろいろやっておられます。今でも聞いていますとナレッジキャピタル、まだまだ一生懸命詰めておられるところもあつたりとかいろいろですけど。といっても、北ヤードのあれだけの一期のところ全部がナレッジキャピタルになるわけではなくて、ほかのゾーンであつたり居住であつたりとかいろいろするわけです。それと同じで、この医療健康、エコメディカルというこのゾーンというのが、北ヤードのナレッジに相当する、これからの時代を先導する。しかも、このまちのイメージを強烈にアピールするというふうに捉えていくのかなというふうに思っています。そういう意味では少し議論を基本計画という大所高所になって考えること。それから、それぞれのゾーンで事業コンペをなさるところでは、どういう事業の募集要項にしていくか。幅広い観点から決めていく必要もあるのではないかなというふうに感じております。それで高橋委員もおっしゃったように、あのコンペの中にはいろんな要素のアイデアがございましたので、そういうものも参照しながら事業募集要綱なんかは幅広くやっていくということが、今からの厳しいビジネス環境の時代に大事なことでないかなと思っておりますが、ちょっとそういう基本計画の策定と事業コンペと、何か一体的になっているような部分もありますので、そこのところはちょっとこの委員会としては話を分けて、大きくこの全体のまちづくりを大所高所から検討していきたいなというふうに感じております。

●福永オブザーバー

1つは世の中の兆しということでエコメディカルシティ構想というのは非常にいい構想だと思いますし、親しみに非常に有効だと思います。それが早期に具体化していくことも望ましいことだとは基本的には思っております。ただ2つほど気になるところがありまして、今まで出たお話とダブっているのですけれども、1つはこれから事業コンペを行っていくときに、やっぱりいろいろな人、数多くの人からいろいろなアイデアをやっぱり具体に出して頂きたいというのがあって、あまりここでコンプリートにガチガチにってしまうと、事業コンペのときに身動きがとれなくなってしまう恐れがある。特にここは阪大病院のイメージがかなりあるものですから、そこがあんまり表に出してしまうと事業コンペで参画してくれる方が少なくなってしまうのではないのか、という心配が1つします。それからもう1つは、林委員が言われましたけれども、多分この高度医療は採算性が非常によくないだろうと、ほとんどがこれ保留地なものですから、事業の採算性、事業が本当に成り立つのかなというところがありまして、例えて言えば、この医療創生ゾーンの中に、ここにある先端医療と教育文化と、これ以外一切入れるのか、入れないのかとか、そこら辺をもうちょっと緩やかにして頂かないと、これから事務局と詰めさせて頂くことになると思いますけれども、もうちょっと緩やかな感じで決めて頂かないと、身動きが取れなくなるという感じがいたしております。以上です。

●江川委員

これからの基本計画をまとめていくと、その基本計画に基づいて事業コンペをやって、さらにその線に乗ったアイデアと事業主体を募集するという形になってくると思うのですけれども、どうもみていると、これは2つ問題があって、1つは基本計画、基本構想ですけれども、何をどうやって実現していくかということが一番重要なのですけれども、何をという目標のイメージばかりを求めている、どうやって作っていくのかというあたりが、どうしても抜け落ちてしまうというのが今までの傾向だったと思うのです。ここではエコとか環境とか言っていますが、その言っている意味は持続性だというふうに思うのです。いろいろな社会の変化だとか、そういうものの中で、持続的に環境をつくっていく。何かある目標に向かって突き進んで、それを完成して、で、終わり。あるいは、それから衰退を招くというような話ではなくて、持続的な環境をどうやって作っていくかということが目標なわけですから、コンペの案を見ている、いろいろプロセスのことは書いているのですけれども、そのプロセスの意味が違うようにちょっと思うのです。絵柄ばかりみてはいけないのだというふうに思うのです。あくまでも絵というのは1つのグランドプランというようなもので、できれば本当はその絵の中にそういう持続性、あるいはどうやって持続していくのかということを、本当は表さなければいけないと思うのですけれども、どの案を見ている、プロセスのことをいっているようで、実は1つの絵にしかなっていないというのが問題だと思うのです。1つの建築、1つのランドユースにしかなっていない。多分これからやろうとしているのはそういうことではなくて、もっといろいろなものが混在しながら、持続的に日々変化していきながら継続していく。そういう環境をどうやって作っていくかということが問題なので、基本計画作成の議論の中には、是非、そのデザインプロセスだとか、事業を振興していったり、状況が変わっていったり、いろんなことが起こっていく中で、メンテナンスだとか継続、この地域全体をどうやってこれから持続的にみんなが支えていくのかみたいなことの方と、そういう提案を事業コンペに応募される方との協力の中で、もちろん吹田市と、摂津市と、機構さんとなるかもわかりませんが、みんなで支え合いながら、やっていくシステムを作っていくのだということを、どういうものを作るだということと同じぐらい、重要な要素として、基本計画の中で考えていったほうがいいのではないかとこのように思います。皆さんがおっしゃっているように、エコメディカルという構想はとても素晴らしい構想だと思いますけれども、その中には、あまり具体的にコンプライトしない時間の中で、いろんな変化の中で、大きくそういう構想として継続していくという視点がやっぱり重要だと思います。何かそういう視点を、基本計画の中に是非盛り込んで頂きたいし、みんなで議論するネタとして非常に重要な、どちらかという、20世紀はそういう視点が抜けていた。作ることばかり考えていて、例えば市町村なんてみんなそうです。国から補助金をもらって作るのです。もらった後、メンテナンスをどうするのかみたいなところで、今、皆さんすごくお困りだというふうに思っています。その辺りが公共を圧迫して、結局持続型にあまりなっていない。作ることばかり考えて、その後、どうやってそれを持続していくかというシステムのあまり考えていなかったせいだというふうに思うのですけれども、今回は、是非そういう発想をもってやれば、今、議論していらっしゃるようなことも含めて、大

きく長期的なスパンで出されていくので、事業に参加される方も協力しながら是非参加してほしいという、そういう姿勢を基本計画の中で是非打ち出されたら、というかむしろ、打ち出されるべきではないかというふうに思います。

もう1つあるのは、これはエコメディカルに限らないことなのですから、20世紀型のものってというのは、どちらかというと産業革命以降、機械とかそういう文明的なことが考え方の基礎になっていますので、どちらかという、僕たちが目に見えないもの、見えないものを信じようというような側面があったというふうに思うのです。目に見えないものを信じなければいけないので、数字だとか、予想の値だとか、こうやればいいんだ、みたいなことで説得されて、一般市民の人たちがよく分からないままに納得せざるを得なくて進めてきた結果、例えば姉歯問題とか、確認申請のああい問題が起って、気付いたときには大変なことになっていたというようなことがあると思うのですけれども、これからの時代は、もう一度目に見えるものをみんなで議論しながら、目に見えるものを頼りにしながら、市民の人たちと一緒に、あるいは市民の人たちの賛同も得て、議論しながらやっていく必要があると思うのです。例えば、エコメディカルなんていうのは、さっきも話がありましたが、よく分からないところがありますから、その辺りを、やっぱり目に見える形にするにはどうすればいいのか私もよく分かりませんが、まず1つ言えることは、エコは必ず目に見える形でできると思います。例えば下水とか、川を埋めるとか、これは目に見えないように、社会の資源の循環を目に見えないような形にしていたところがありますけれども、もう一度それを目に見えるような形にしていくということが、エコという意味では非常に重要だというふうに思いますし、メディカルとおっしゃっているところを、いかにすればみんなが分からないけれども、皆さんが言っているからついて行こうというのではなくて、やっぱりそれは重要だねと。私たちの将来にとって、とっても大切なことよ。自分たちだけでなく孫の世代、その次の次の世代にどんどん継続的に重要だということが、一般市民の人に分かるような、そういう目に見える形でいろんなことをやっていく、進めていくことが重要だと思うし、さっき言いましたプロセスみたいなもの、そういうプロセスを支えるシステムみたいなもの、そういうものも目に見える形で基本計画の中で、そういうところを基本計画の何をするという構想ももちろん重要ですが、それと同じぐらい、あるいはそれ以上とっていいぐらいに、それを支えるプロセス、形、みたいなものを重要にしていく、というようなシステムで基本計画を作っていくと、今皆さんが議論されているようなことの表現の仕方だとか在り方も、自ずと収まるところに収まっていくのではないかと感じました。

●山内委員

今、いろんな意見が出ているのですけれども、いまだに今日お出しいただいたエコメディカル構想素案というものの位置付けといいますか、どういうふうに扱っていったらいいのかよく分からないところもありまして、そういう手続き的な面と、それから中身の話と、1つずつご質問したいと思うのですけれども、まず、手続き的な面で、これはアイデア募集コンペに応募された中の、応募作品の1つにかなり依存した素案になっていて、特にネーミングがそういうふうになっているので、それに一生懸命だと思うのですけれども、アイデア募集コンペの応募作品と、それからこの素案と、それから今後策定する基本計画と、それから来

年度行われる事業コンペとの関係がちょっとはっきりしないところがあって、もし今日この素案でアイデア募集コンペのうちの、応募作品の1つにかなり依存したような構想でいこうというふうになると、その募集コンペの意思決定をかなり事前に縛ることにならないか。あるいは事業コンペに潜在的に出そうと思っている応募者のインセンティブにかなり大きな影響を与える可能性があるのではないかというふうに考えていて、このエコメディカルという固有名詞的なものをここで出してしまふことが本当にいいのかどうか、ということです。ちょっとその辺りの、形式上はもちろんアイデア募集コンペの応募者と、事業コンペの応募者が形式上は違うわけですが、実際にはある程度連携している可能性があるので、将来の意思決定を何かその今、不必要に縛るような意思決定をここですべきではないと思います。することに関しては慎重であるべきではないかというふうに思って、その辺りをちょっとお伺いしたいというのが形式論ですね。それから中身の点では、今日ご説明していただいた素案は、メディカルの部分はかなり太い軸になっていて、メディカルについては何となく理解でき、エコの部分については、かなり線としては弱くて、かつエコとメディカルとが必ずしも連動的に相乗効果を発揮するような形にはなっていないくて、エコメディカルという、エコメディカルシティというコンセプトは非常に魅力的なんですけども、中身的にはエコ・メディカルになってしまっているのかなという感じがして、その辺りをこのアイデア募集コンペで出されている他の構想の中には、エコの部分についてかなり具体的なアイデアをもっているのもあったように思いますので、その辺りの組み合わせが今後可能なのかどうか。そのアイデア自体の所有権というものの関係もあると思うんですけども、その辺りを教えていただけますか。

●奥田委員

ちょっと中座をさせていただきますね。1つだけ、今まで出たご発言、私も質問したかったこと、あるいは言いたかったこと、同感ではあるのですが、あえて申し上げますと、そういういろんな問題はあるのですが、こういう難しいプロジェクトというか、特にコアコンセプトの採算性が非常に厳しい中でこういったものを実現しようと思うと、必要なことはやっぱり政治的リーダーシップというのが必要でありまして、そういう意味では、あえてこの段階で市長がと言っているのか、吹田市という名前でこういうご提案がこういう場にも出されるということは、やっぱり私は評価をしたいと思うのです。やっぱりこういうことは、なかなかボトムアップも、事務局同士ちゃんとやりなさいというのもその通りですが、それが行き過ぎて、ボトムアップでないと何も決められないということであつたら、こういったことは実現しないと思いますので、今後とも市長、それと両市長の間の1つ案、より密接して頂いて、お二人の政治的リーダーシップを強力に発揮して頂くということが、困難な問題を解決する一番重要な要素だと思いますので、その点、よろしくお願ひしたいと思います。

●阪口会長

ありがとうございます。大体共通性のあるご意見が、一応一そろい出して頂いたのではないかなと思います。また、確かに一番重要な問題のご指摘を頂いたのではないかなと、それに感謝を申し上げます。摂津市長、吹田市長、たまたま、会長、副会長、また、阪大病院の

林先生、副会長でございますけれども、それぞれの立場を混同しないように、難しいですけれども。やはり、コアコンセプトというのが、審査会の時からその話は出ておまして、審査会の審査委員長のご推薦、あの時も、これはコアコンセプトですねと、全体を表現するものではないということを、確かに確認をされておりました。でございますから、摂津市長が申されましたように、これで細かく全ゾーンを束縛し、拘束するものではないということは、私はそのとおりだと思っています。また逆に全ゾーン、それぞれのゾーンと、またこのコアコンセプトとのやはり自然な関連性といえますか、自然なというのは、緑と水につつまれた健康教育創生拠点でございますから、漠然としたイメージでつながるだろうとは思っています。環境、健康教育創生拠点でございますから、つながるのではないかと。そのつながりはやはり、それぞれのゾーンとコアコンセプトとのつながりはやはり、もう一度検証していく必要があると思っています。また、ゾーンゾーンの計画も、これから作っていかなくてはならないと思います。また、エコ、そしてまたこれを実現するプロセスの重要性、目標だけをバーンと打ち出すのではなく、計画委員会は確におっしゃってもらっていますように、プロセスまでやはり含めた計画、そして、つくってからの後のケアまで考えた、ケアコストを考えた提案と言いますか、そういうものにならなければならないというのは、本当に今の世相を見ていましたら、私は、ご指摘のとおりと思っておりますから、将来のランニングコストみたいなものまで考えていかなければならないと思います。それと、エコ・メディカル、その問題ですけども、エコは緑と水につつまれた健康教育創生拠点。実は、エコとメディカルというのは、最初から隠れてと言いますか、最初からありまして、そういう発想はございまして、吹田市も環境世界都市というのを要望させて頂いて、環境モデル都市に立候補したのですけれども、それはまだ今のところちょっと具体性が欠けているのは事実でございます。これからどのように計画をつくっていくか、そのときに、エコロジーの問題が既に、最初から挙げられておりましたけれども、メディカルの問題、これは吹田のポテンシャル、最初から構想の中でも吹田には阪大病院と国立循環器医療センター、2つの済生会病院等々、医療のポテンシャルが非常に高い、14もの病院もありますよというようなことも申しておまして、そういう高いポテンシャル、それをどのように生かして、巻き込んで、抱き込んで、あのときの審査会のときでも、特定の人、機関に依存するのではなく、そういったポテンシャルをどのように巻き込んで、引き込んで事業を進めていくのかということが問題だというご指摘もございました。そうでございますから、そのような吹田のポテンシャルを抱き込んで、活用して、そして生かしていくかという、そういうことになってくるだろうと思っております。でございますから、特定の事業を進めるのではなく、特定の団体とか、特定の個人とか、そうした1つの連携を最初から模索するのではなくて、そういうポテンシャルを抱き込んで、どのようなやはり地域個性のあるまちづくりをしていくのかという、それでなおかつ、地域から世界に発信できるようなまちづくりをしていくのかということ、そういう問題意識で、今ある、目の前にあるポテンシャルを有効に生かさない手はございませんから、そういう発想で取り組んでいきたいという思い、そして最後にやっぱり、摂津市との連携を十分踏まえながら、また、今日計画委員会で集まっておりますけれども、計画委員さんが出てこられている組織、バックボーン、それと連携しながら、なおかつやはり、計画委員会ですから、あ

まり細かいところまで指定するのはちょっと、私も事務局でつくった資料は細かすぎるのではないかと思ったところではございますけれども、ご指摘のとおり細かいところまで、実際に目を触れて、そういうところは申し訳なく思っています。大所高所から、やはりやっていくのが計画委員会でございますから、そういう事業主体が手が上がりにくいような、規定してしまいますようなものではないかと思っておりますので、もう少し大局的な観点で、もう1回これを出し直さないといけないし、またそれぞれのゾーンの基本計画も摂津市等々にご協力させて頂きまして、出させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

●高橋委員

市長のご意見がよく分かったのですが、私、是非、やっぱり皆さんに、一般の市民に理解して頂くときに、やはり世界を後ろに、これから日本というのは環境によって大きな環境計画を変えていくっていうのが、今の日本のいろんな沈滞を、環境技術によって将来、世界に出られるというような状況が、もうみんな政府も考えています。それだけに、やはり世界に、先進的な理解をさせるような医療水準というのは、やはりこの大きな阪大病院だとか、循環器があるのだと思うのです。それがないと、吹田の前の跡地だけで、それをすべて実施すること、あるいは行くことは無理です。それでやっぱりそういう意味で、採算性もありますし、ただその大きなクラスターの医療とか健康ゾーンのクラスターに、エントランスだというふうに考えながら、それが大きな、世界に誇れるような水準を保つということは、是非これは大事なことで、今、市長が言われた、そのクラスターの連携機能を重視するのです。そこにいかに私達に分かりやすいエントランスがあるかということも是非考えてください。ですから、エコメディカルというのは、メディカルの中のエコロジーはどういうことかということと、メディカルを包むエコロジーはどうするものかと、2つあると思うのです。そういう意味でおっしゃっているように、あんまり細かく、未病健康とかロボティクス健診センターとかそういうことを書いてしまうと、もっともったいいアイデアが、例えば私なんか、やっぱりいろいろな人から聞いて、もっとやってやるのになとか思うのです、素人ですけど。そういうことまで入れて頂くような、ゆとりのあるような、やはりアイデアのあるところでは、夢のあるというふうに書いておられましたから、特に夢みたいなことを書かれて、事務局のお気持ちも分かるのですけど、やはりそういう意味で、すべてを、やっぱり採算を重視しないといけないので、すべて吹田のこの跡地で実現するということはちょっと難しいので、もっと連携機能を重視するような表現にされた方が、みんなも納得すると思うのです。

●森山副会長

私、もう最後ですが、事務局に言うことは事務局に。今日はいいい見がたくさん出たと思うけれども、何回も出てくるのは、吹田と摂津という名前が出てくる、これがしっかり主体性をもてと言われる。私は初めから言っているように、やっぱり当初は吹田の東部におけることから始まっているから、これはこれで分かるのです。良いことはあんまり我々は、摂津市としては問わないけど、やっぱりリスクは、私は、摂津と吹田と同等に負うて参りますので、もしもそういうことがあれば。それだけに両事務局同士、きちっと詰めていかなければいけないだろう、大阪府も交えて。それを無しにやるとなると、ちょっと訳の分からないこ

とになってきたらいけませんので、今日は良い意見がたくさん出たと思っています。

●江川委員

すみません、最後に余計な話で申し訳ないのですが、考えてみると、エコメディカルという発想は、至極当たり前の話で、非常に重要な、これからの発想だと思うのです。ですから、さまざまなエコメディカルというのは、やっぱりおっしゃるようなあると思うのです。そのある種の先端的な拠点を作るということになるのかも分からないですけれども、私がさっきプロセスとか、支えるシステムとかと言いましたのは、ランニングコストを考えて、構想を掲げないということではなくて、構想を広く高く掲げて、それを支えるシステムをやっぴりちゃんとつくろうということをもっとしっかり議論すべきだということが1つです。それから、一番いつも、私は思うのですけれども、建築の場合なんかいつも完成予想図とかを書くのです。あれはまったくエコメディカルじゃないわけです。常にものがあったら動いているわけですから、一挙にいっぱいいろいろな工事が発生しますし、場合によってはうまくいかないでというか、時期がずれてしまったり、いろいろなことが起こると思うのです。そういうことを、一体どういうふうに工事の途中も含めて、建設途中も含めて、そのエコメディカルという概念で、みんなに見える形にしていくのかということを考えるということは、非常に重要なことだと思うのです。そういうようなところから、今までそんなことはなかったのです。最近では工事の途中、途中というものを非常に重要視して、建設過程の持っている意味みたいなものを非常に重要視して、非常に良い市民との対話の時間であったり、メッセージを伝えたり、議論を呼びおこしたり、議論する場であったりとか、あるいはそのことによって、さらに持続性を高めたり、新たな、一遍決めたから終わりということはないはずですから、常にいろいろなことは予定は変わっていった良いわけですから、そういうものに柔軟に対応していけるような、柔軟なことがやっぱり一番強いし、持続的だというふうに思いますので、そういうような体制、システムを作るということが、多分エコメディカル、あるいは環境都市みたいなことを実現するために非常に重要だというふうに思います。ですから、そういうところを無視するのではなくて、一番重要なのはこの建設過程だと私は思いますね。周りの市民の人たちは何十年もほったらかされた空き地の周りで、随分過ごしてこられて、そういうこともあって、いろいろなことが気になっていたのだと思うのですけれども、さらにこれから一挙にいろいろなことが起こってしまったら、いくら構想を掲げていったとしても、そのプロセスがそういうものとまったく連動していない、反するものであったら、何をやっているのだということになりますから、そういうところから含めた、全体としてのそういう基本計画、構想みたいなものを是非、して頂きたいなというふうに思います。

●篠崎委員

ちょっと私も、中座させて頂きますので、一言。もう皆さんおっしゃっているのですが、このエコメディカルシティというコンセプト。この中で、例えば事業者を呼び込んでいくところでは、かなりイメージが固まった、コンプリートされたものが提示されている。私は事業の採算を考えると、そういう構想に基づいて進出される企業というものをイメージしておかないといけないのですが、このまち全体を考えたときには、ここにお住まいになる方も

いらっしゃるわけですし、近隣の方々が交流ふれあいをされるわけですし、ここでどういう生活が、市民の方々、訪れる方々がどういう暮らしを展開できるのかというイメージを、もっとふくらましておかなければいけない。その部分が、今日バランスがちょっと欠いていたので、皆さん方のご意見だったのだろうと思います。事業コンペのときは、どんどん厳しくなってくるビジネス環境などを考えながら、世界に対して打ち出していくという視点を持ちながら、幅広くやっていかなければいけないのだと思いますが、計画委員会の中ではそういった視点だけではなくて、やはりここでどういうエコロジカルなライフスタイルが展開できるのかということも考えながら、検討していきたいなと私は思います。

6) 閉会あいさつ

● 阪口会長

それでは、いろんな本当に貴重なご意見を出して頂きまして、大変今日は参考にと言いますか、勉強になりました。本当にありがとうございます。

これからまちづくりの計画を策定していくのですが、他の大きな方向性、緑と水につつまれた健康教育創生拠点というのが当初からの考え方でございます。そんな訳で、今置かれている吹田・摂津の環境、社会経済環境、これはやっぱり医療という素晴らしいポテンシャルがございますから、これを取り込んで、環境のまちをつくりたいという意味で、私が提案いたしましたエコメディカルシティというのは計画ではなくて、構想ということで、この構想を一応踏まえて、まちづくりの計画を策定させてもらってよろしいでしょうか。

ありがとうございます。今日はいろいろなご意見を頂きました。やはり吹田と摂津との事務局における連携の密度が若干弱いのではないかというような印象を受けましたので、それはやはりきちっと深めてもらわないといけないし、また、大阪府との連携、アドバイスを頂きながら。阪大病院の林病院長様もおられますけれども、ご指導を頂きながら、プロセスが大事だということを強く私も認識させられまして、プロセス、建設してからのイメージ、そこらを十分踏まえまして、あまり細かい計画にならないように。構想ですら細かい部分がありますから、あまり細かい計画にならないように、いろいろな人が参加できるような、そういうような基本計画をつくっていきたいと思っておりますので、これからも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

以上で、本日の案件はすべて終了いたしました。委員の皆様におかれましては、大変ご多忙の折、ご参集をくださいまして、誠にありがとうございました。これからもご指導、よろしくお願い申し上げます。

次回は、11月頃の開催を予定をいたしておりますので、また詳しい日程は調整させていただきます。よろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。